

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：R5年2月19日

事業所名 いろえんぴつ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		床にジョイントマット等をしきつめ安全を確保している。	子ども達が安心・安全に活動できるスペースは十分に確保できている。
	2 職員の配置数は適切である	8		定員人数に対し多く配置している。	適切である。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	6	入り口に段差がある。	大部分なされているが見直すべき部分は存在する。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1	職員全員にそれぞれ自由に目標を設定してもらおう。	職員の意識を高める為のミーティング、設定した目標をどう達成するか職員全員で話し合う。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	1	送迎時などにヒヤリングし、意見等を聞き入れる。	積極的に保護者様の意見を取り入れる為に、評価表ご意見欄に記入していただく事をお勧めする。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		事業所内でも閲覧可能にしている。	自社ホームページで公開している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	5	コロナ禍の為、行っていない。	第三者による外部評価は行っていない。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		スキルアップの為にかかる費用の一部を会社が負担する。	資格習得、外部研修機会の確保、費用の補填を充実させる。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8		アセスメントシートを使用している。	標準化されたアセスメントシートを用いて作成することで、客観的に分析できている。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		常にアセスメントの見直しを心がけている。	外部の資料も参考にし、標準化されたものを使用している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1	常に職員全員の意見を取り入れるようにしている。	数人のチームで行うが、広く意見は聞き入れる。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		子どもの状態や、人数を考慮し、工夫している。	遊びから学べるよう、子ども達の意見も聞き入れ固定化を防ぐ。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8		遠足等戸外活動を実地している。	平日、長期休暇で活動内容は異なるが明確ではない。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8		職員は各児童の特性を把握しておく。	子ども達の特性に合わせて、個別と集団を適宜組み合わせている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1	職員はその日利用する児童の特性を確認しておく。	その日の子どもの人数、特性により、活動内容を話し合う。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1	日々の支援で気付いたことはグループラインにUPしている。	その日気付いた問題点は、当日、又は翌日には必ず、職員全員で共有する。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		日々の支援で気付いたことはグループラインにUPしている。	日々の支援に関しては、業務日誌に記録している。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8		児童によって定期期間を変更している。	子どもの特性によっては定期期間を1カ月に定め、支援計画の見直しを考案している。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7	1	職員はガイドラインを熟読している。	ガイドラインの基本活動を中心とし、複数の組合せで支援を行っている。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		職員は特定の児童に支援が偏らないように配慮する。	その児童の特性を最もよく理解していると思われる職員が参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8		送迎時などの時間も利用している。	常に連携をとり、情報交換を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	5	医療ケアが必要な子どもは、在籍していない。	保護者様を通じて、何時でも連絡をとれる体制をとっている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8		就学前に利用していた施設は、フェイスシート作成時に把握している。	必要に応じて、保護者様の同意を得、情報提供及び、情報の提供を受け、相互理解に努める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	1	該当する児童の支援内容等の情報は、保護者様の同意を得て移行施設に提供している。	現時点で、対象となる児童は在籍していないが、必要に応じて情報提供する用意はある。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	6	他の施設からの発信を積極的に受信するようにする。	他の施設とも積極的に連携し、見学、研修等に参加するようにする。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	7	コロナ禍の為、出来ない。	障がいのない子どもと活動する機会はあるが、児童館等、他の施設との活動機会も増やす。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	7	コロナ禍の為、出来ない。	もっと積極的に協議会等への、参加を促す。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		送迎時の時間を利用し、意見交換するようにしている。	日々の子ども達の活動や変化については、電話、SNS等で、情報伝達し、保護者との間で共通理解を持っている。
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	6	ペアレント・トレーニングは行っていない。	ペアレント・トレーニングは行っていないが、スキル向上の為に研修には参加するようにしている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		説明後、不明点等の質問を受け再度説明するようにしている。	特に、子ども達の利害、保護者様の負担については、重点的に説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		保護者様からは、適時にSNS等で悩み、相談等は受信している。	訪問、来所、電話、SNS等で必要な助言を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	7	コロナ禍の為、出来ない。	保護者同士の連携、支援のための仕組みを構築させる。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8		子ども達からの苦情についてはどんなときでも対応するように周知徹底している。	児童・又は保護者様からの苦情(苦情専用窓口の設定、各保護者様とのLINE交換)には、迅速かつ適切に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		ブログ、インスタを毎日UPしている。	保護者様への情報発信については、一斉メール、お手紙、連絡帳を通じて発信している。
	35	個人情報に十分注意している	8		鍵付き書庫、パスワード等を使用している。	保護者の同意を得ることなく、又、支援の目的以外で、外部漏洩する事が無いよう、厳重に管理している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		ゆっくり、分かりやすい言葉、マカトンサイン、絵カードの使用	視覚、聴覚をつかった情報伝達を行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	3	近隣住民には事業活動に対し理解を得ている。	地域住民参加型イベントの開催を考案する。まだ実現はしていない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8		保護者様には、契約時に説明している。	マニュアルを作成し職員には、周知徹底している。保護者様には定期的に手紙等でお知らせしている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		地域の消防署に訓練の実地指導を依頼する。	半年に1回の実施訓練を行う。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		職員の過度なストレスを回避する為、なんでも話せる環境をつくっている	虐待防止に関する研修等は、事業所が十分にその機会を確保する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	1	日々、児童同士、その特性を理解しあえる環境づくりを考案している。	当該児童、他の児童に危害が加わる恐れがある場合を除き身体拘束はしない旨、個別計画書に記載する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	2	アレルギーのある子のおやつは、その子用に付けている。	医師の指示書はないが、保護者から詳しく聞き取りし、対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		その都度報告するようにしている。	各自がグループLINEにUPし、事例集にまとめ、職員全員で共有している。